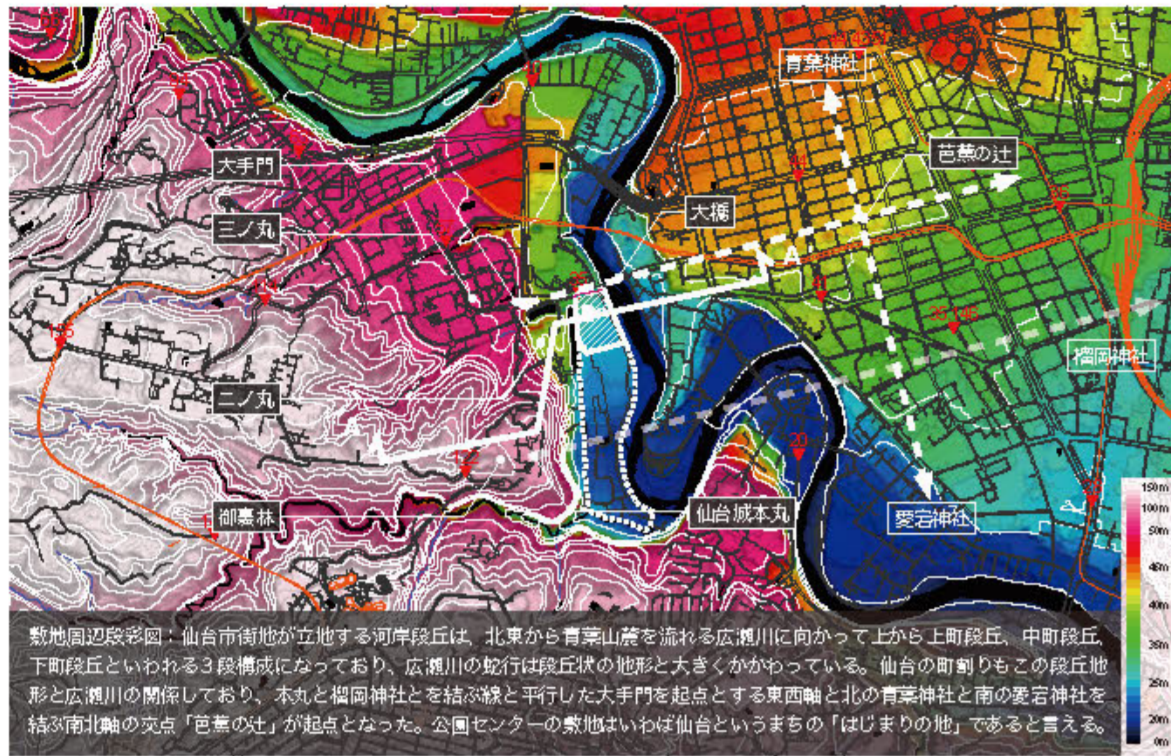


技術提案書（プロポーザル案）

（受付番号： ） 青葉山公園（仮称）公園センター等基本設計に係る公募型プロポーザル
※事務局記入欄

もりの歴史を未来につなぐ

政宗が見た‘もり’と出会い、‘まち’の物語を紡ぐ、
400年の都市デザインセンター



第1の森 " はじまりの森 "

東北大学付属植物園
(御裏林)

「入そめて 国ゆたかなる初とや 千代とかかしら せんたいの松」初代仙台藩主・伊達政宗は、仙台開府にあたり、このまちの未来の繁栄を願ってこの歌を詠みました。仙台開府の11年後、沿岸部を襲った1611年の慶長三陸津波で沿岸部に大きな被害を受けながらも、このまちはその後400年にわたって「杜の都」としての成長・繁栄を続けてきました。2011年、私たちは再び自然の猛威に直面し、現在、再生への試練の只中にあります。公園センターとして仙台を訪れる人々、そして次世代の子供達に感じてもらいたいのは、都市は自然への畏怖と畏敬の念と共に作られていくものであるということです。私たちは開府当時のままの生態系が現在も残されている「御裏林」（現・東北大学附属植物園）に学び、様々な人々が共に「杜の都」を未来に届けていける拠点となるような公園センターを提案します。



第3の森 " オモテ林 "

公園センター
片倉小十郎屋敷跡

第2の森 " まちの杜 "

西公園
仙台市街

実施方針

基本方針1：基本計画を正しく理解し、より高いレベルでの実現のための取り組みや工夫が見られるか

「オモテ林」～杜の都・仙台に「第3の森」を創る。

仙台開府とともに「御裏林」として400年にわたって生態系が維持されてきた自然林を「第1の森」、杜の都・仙台を象徴するケヤキ並木に代表される「まち」の緑を「第2の森」とするならば、私たちが公園センターで提案するのは「第3の森」です。第1の森（モミイヌナナ）の林床空間に育まれた豊かな生物多様性のシステムに学びながら、「自然と人間社会がより豊かな関係を育んでいくための21世紀の林床空間を「オモテ林」と呼び、公園センターに人々を迎える広場・テラス・庭園・建築を「森のような空間」としてしつらえ、柔らかな光に包まれた、出会いと回遊性を含み養育する場所をつくらす。



「青葉山の御裏林」モミの巨木が誇る生物多様性。青葉山にはモミにスギを加えた常緑針葉樹の集まる「モミ林冠(ベッチ)」とコナラ・アカシダなどの多数の落葉広葉樹の樹冠が集中する「落葉広葉樹林冠(ベッチ)」がモザイク状に配列し、林冠パッチの間に異なる光環境や土壌条件を生み出し、それが生育系の異なる多彩な種の共存を可能にし、稀に見る多様な森を成立させています。

基本方針2：市民の合意形成、物理的課題以外の課題解決を行うための組織づくりがされているか

プレイスメイキングを効果的に行う監修者+専門家体制

技術的課題以外の課題解決を計画と並行して進めていくために、震災復興や市民を巻き込んだプレイスメイキングの活動を得意とする建築家を統括監修者とするチームで、公民連携・パブリックスペース、地域史(都市史)、木質構造(都市木造)、文化財保護に関するスペシャリストを監修者グループとして編成します。実績のある建築・ランドスケープ・構造・設備の専門家チームにて技術的課題を的確に解決しながら、施設設計の初期段階から市民を巻き込んだプレイスメイキングによる公園の新価値創造の可能性を最大化します。統括監修者は仙台をはじめとする東北沿岸部の状況にも明るく、仙台を核とした東北一円の観光回遊性に創出について効果的なアイデアとネットワークを有しています。

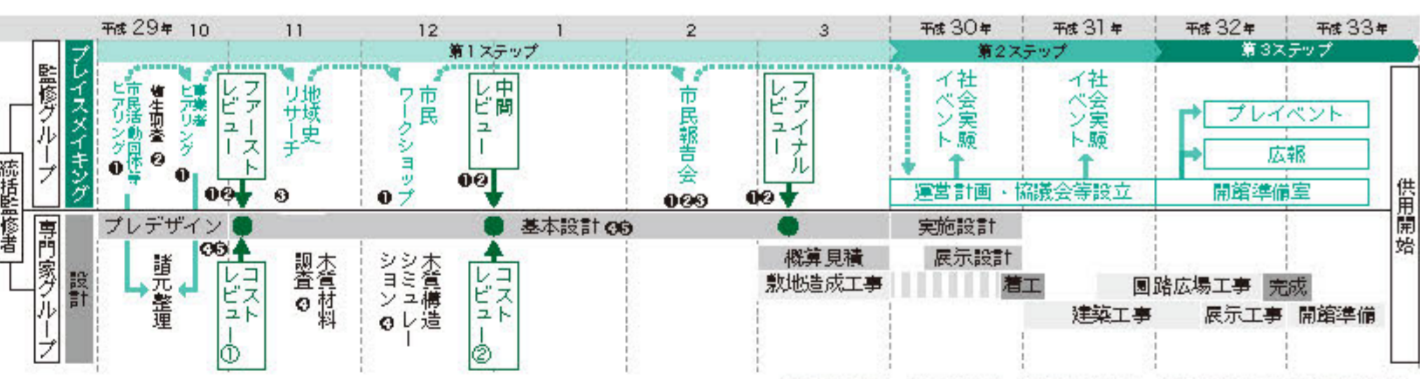
「プレイスメイキング(Place Making)」とは「場所を育てる」という意味のもと、文化、歴史、環境、コミュニティといった、その街に本来的に備わる多様な地域資源、価値の発掘と活用に限らず、街づくりの思想および、その手法です。



基本方針3：公園センター地区の供用開始までの全体的(設計期間・工事施工期間・供用開始準備期間等)な作業フローが、課題に対する提案の内容と整合がとれているか

設計・工事工程と連動した監修工程

基本設計期間を「プレイスメイキングの機運醸成」「コスト管理」の最重要期間として位置づけています。【監修者】①コミュニティ ②公民連携・パブリックスペース ③地域史(都市史) ④木質構造(都市木造) ⑤文化財保護

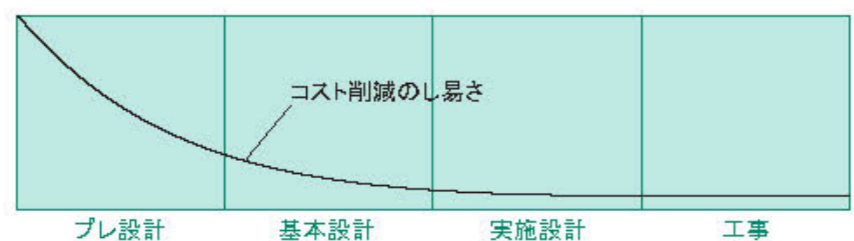


コスト管理・実施方針、技術提案の内容が想定事業費を要したものとされており、コスト管理体制が整えられているか

DTCによるプレ設計段階からの建築・ランドスケープの統合的なコストマネジメント

DTC(デザイン・トゥー・コスト)は、設計初期段階から正確なコスト目標を設定し、性能、コスト、スケジュール間のトレードオフによって、システムコスト(取得、運用、補修のコスト)をコントロールして、コスト目標を達成しようとするマネジメント概念です。建築とランドスケープの間で切り分けられがちな設計パラメータ(性能、コスト、スケジュールなど)を統合的にマネジメントすることで、基本計画で求められている両者の一体化をより高いレベルで実現します。

- 1. 想定事業費と要求性能の整合を取ります。
- 2. コストシミュレーションを行い最適化を行います。
- 3. コストレビューにより設計内容との整合をはかります。
- 4. 早い段階で積極的にVE検討しリスクを最小化します。
- 5. 的確なコストプランニングと柔軟かつ積極的なコストマネジメントにより予算内で価値を上げます。



デザイン・チーム・アプローチによるコスト管理

DTCは品質・コストを統合的にマネジメントするという能動的なデザイン・チーム・アプローチです。専門家グループの主任技術者によるDTCコストマネジメント会議を定期的に行い着実にコスト管理を行います。また、追加要望の反映等による計画変更にも柔軟に対応します。コスト管理表の作成、発注者への提示・打合せ協議などに関しては、公共工事の積算を得意とする担当者を専任で配置し、円滑なコミュニケーションによる早期合意形成に努めます。コストに係る特殊要因の検討に関しては、施工技術レベルの知見を有するチームのバックアップ体制を有しています。

技術提案

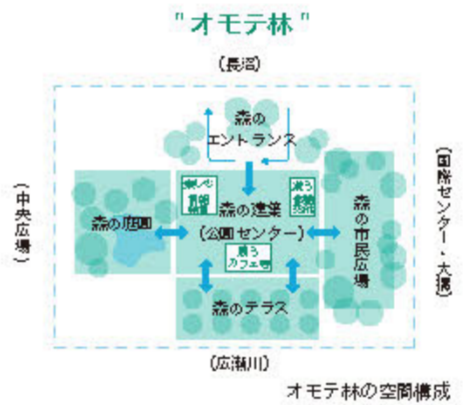
基本計画による課題 及び空間・施設デザインの方針に関して、より「仙台らしさ」を伝えることができる創案工夫に対する

「街づくりの起点」から「ひと・街づくりの拠点へ」

青葉山公園全体の中で、公園センター地区は最も大勢の人々を迎える出会いの場です。歴史的にも仙台の「街づくりの起点」となった場所が、今回の整備において目指すべき姿は単なる観光インフォメーションセンターではなく、観光客と市民の交流、市民同士の交流、多世代間の交流を創造していく「ひと・街づくりの拠点」としての公園センターです。仙台の「はじまりの場所」で新しい社会創造へつなげる観光交流を創造するために、私たちは政宗が見た「はじまりの森」に学び、それを現代の都市生活のスタイルにアレンジします。パークライズ、健康づくり、そして21世紀のリバブルシティへ。「はじまりの森」の林床に豊かな育まれた生物多様性の様に、「第3の森」の林床に、人々が自然に惹かれ、楽しみ、学ぶ、多様な出会いや活動が育まれます。

「オモテ林」がつくる生態系ランドスケープ

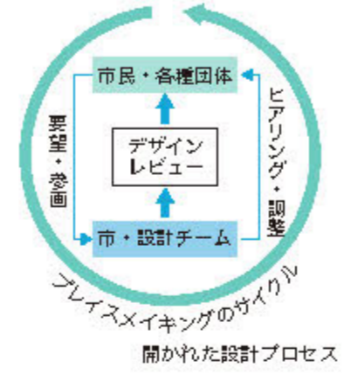
公園センター地区のアプローチ部分に広い樹林空間「オモテ林」を提案します。「はじまりの森」＝御裏林に対して人々を迎える「オモテ林」には観光利用や公園利用、教育利用など様々な人々の活動が生まれる様に、4つの樹林から構成されます。
1 森の市民広場 大橋のたもとにいつも人々の賑わいが溢れる様なイベントの森。(ファーマーズマーケット、農産物直売所、スタンプラリー(冬期など)
2 森のテラス 広瀬川越しに都心部へのシティービューが楽しめる木陰のカフェテラス。
3 森の庭園(青葉山の森) 御裏林に残された青葉山の生態系を再現した森林庭園。
4 森の建築(公園センター) 3つの樹林をつなぎ合わせる森の様な建築。



設計プロセスにおける市民や関係者の意見の反映等に関する考え方

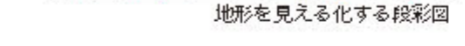
プレデザイン段階を導入したデザインレビュー

監修者グループと専門家グループがプレイスメイキングと設計工程を並行して進めていく組織体制によって、杜の都のシンボルとなる公園センターのコンセプトづくりとその具現化を同時に進めていきます。基本設計初期にプレデザイン段階を設けることにより多様な関係主体の要件を施設の諸元整理へと反映し、その結果をデザインレビューによって共有・同期します。基本設計段階ではプレデザイン完了時のファーストレビュー、中間レビューとファイナルレビューの合わせて3回のデザインレビューを設けることで、開かれた設計プロセスを目指します。デザインレビューをより開かれたものにする事で、多くの人がつくるプロセスに参加することが可能となり、設計プロセスがプレイスメイキングの効果を発揮します。



地・質WS:まちを理解し、新しい回遊性を創出する

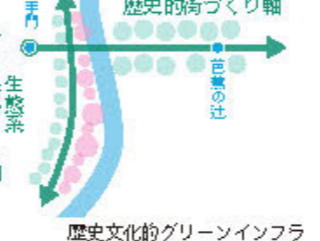
地域史からのアプローチとして「地・質WS」を提案します。一般的な「地質」の意味合いを含みながらもそれだけではなく、都市や建築のありようやその行方をより深く考えていくための一つのきっかけづくりを目指した概念としての「地・質」。青葉山や仙台の街における場所や土地のキャラクターを再確認すること、そして、普段わたしたちの目に見えてくる都市や建築の表層だけではなく、空間的・時間的に深層を掘り下げていくことで、その姿をより深く理解していくためのフィールドワークWSを設計と並行して開催し、青葉山公園のデザインコンセプトを市民の皆様と一緒に高めていきます。それによって、青葉山公園が都市観光のデザインেশョンとして開かれ、鳥や昆虫などの生き物も含めた自然生態にも親しめる機会となるでしょう。



立地条件や社会的要等の課題抽出と技術的な解決手法の考え方

都市創生の歴史を継承するグリーンインフラ

計画敷地一帯は、伊達藩時代の仙台の街づくり(東西軸)の起点となった場所であり、天守の南西に広がる丘陵地帯(御裏林)として幕政の時代に保全され、公園一帯は市の自然環境保全上も重要な位置づけにあります。このような敷地一帯の位置づけと歴史性を踏まえ、公園センター地区は新たな杜の都の起点、歴史文化的グリーンインフラとして位置付けることが重要と考えます。「御裏林」をモデルとし「街づくりの原点となった本物の自然」を体感できる林＝生態系としての「オモテ林」を創り出します。大手門起点の歴史的な街づくり軸、つまり東西方向の緑の軸(青葉、広瀬、定禅寺通り)に対し、オモテ林は、新たな<ひと・街づくり>の軸(生態系軸)として広瀬川に沿った南北方向の緑の帯軸として提案します。



公園センター：「透明な森」としての建築空間

木質構造を用いた比較的重量な建築で、自然林の林床に広がる生態系豊かな空間を目指します。

自然丸太柱の構造材への活用 樹木の3Dスキャン技術を利用し、木質構造シミュレーションを行うことで、建物躯体の一部に自然丸太柱を用いたラーメン構造を検討します。システムの導入に関しては先行事例があり森林管理に展開されています。



災害に対応できる木質構造 木材の耐火性能に関しては、設計内容に合わせて検討します。検討に必要な知識・技術的な展開アドバイスのバックアップ体制を有しています。また燃え代層は着生植物の定着層としても適しています。



アクティブデザインの新拠点

青葉山公園周辺は歴史文化的施設資源に恵まれた地域であると同時に、都心に近くありながら自然豊かなエリアでもあり、アクティブデザイナー都市生活における多様な健康づくり活動を促進する空間デザインの新しい拠点として高いポテンシャルを持っています。青葉山公園においても「オモテ林-森の市民広場」の健康づくりへの活用(ヨガ、太極拳など)にとどまらず、中央広場や桜の小道など、季節や時刻に応じた多様な健康づくりの機会を提供する様に環境整備を行います。同時にそれはより多くの市民がこの場所に愛着を持ってコミットする機会を創出し、プレイスメイキングの重要なプロセスにもつながります。



市民が森をつくり、公園を育てる

これからの街づくり、公園づくりに関して市民の参加が不可欠であることは言うまでもありません。これまで公園整備段階における市民参加型のワークショップが進められてきましたが、今後は公園を「育てる」ことへの市民参加を意識することが重要と考えます。この「育てる」ことへの市民参加へと歩を進めるためには、市民参加の仕組みと場づくりが重要だと考えます。本設計における市民参加ワークショップの実施に当たっては、公園運営や活動の専門家やコーディネーターの参加により、整備後の施設運営プログラムの検討、公園ヴァリュアップのための市民による公園評価の仕組みの検討、運営管理への新たな参加形態としての「公園育ての親」制度の検討を盛り込むことを提案します。



仙台の四季に対応した空間活用計画

春～夏に青葉が瑞々しく茂り、秋に紅葉が山々を力強く彩り、寒く厳しい冬を迎えるというダイナミックな自然の移り変わりに対応したランドスケープとアクティビティの計画を行います。一年を通して快適に過ごせる「森」の空間となるセンター施設を核に、「オモテ林」では、季節毎の活用方法を運用計画に合わせてフレキシブルに計画できるように想定しています。



市民が支えるアーバンピクニックの場づくり

公園計画において意識すべきことは、都市住民の安全・防災と健康への希求に加え、住民相互つながりを生むコミュニティづくりです。近年の海外観光客の増加、体験型観光へのトレンド移行を考えると、住民と海外観光客との交流促進など、市民目線での国際交流の視点が重要です。青葉山周辺には歴史・文化・交流施設が数多く立地しており、青葉山公園のセンター施設として、新たな交流を生む仕組みが重要です。国際的な人々の出会いと交流のためのプレイスメイキングの仕組みとして、公園センター内外における市民が支えるアーバンピクニック(都市内社交・交流)の拠点としてオモテ林(森の市民広場)を位置づけます。



（仮称）公園センターの位置づけ

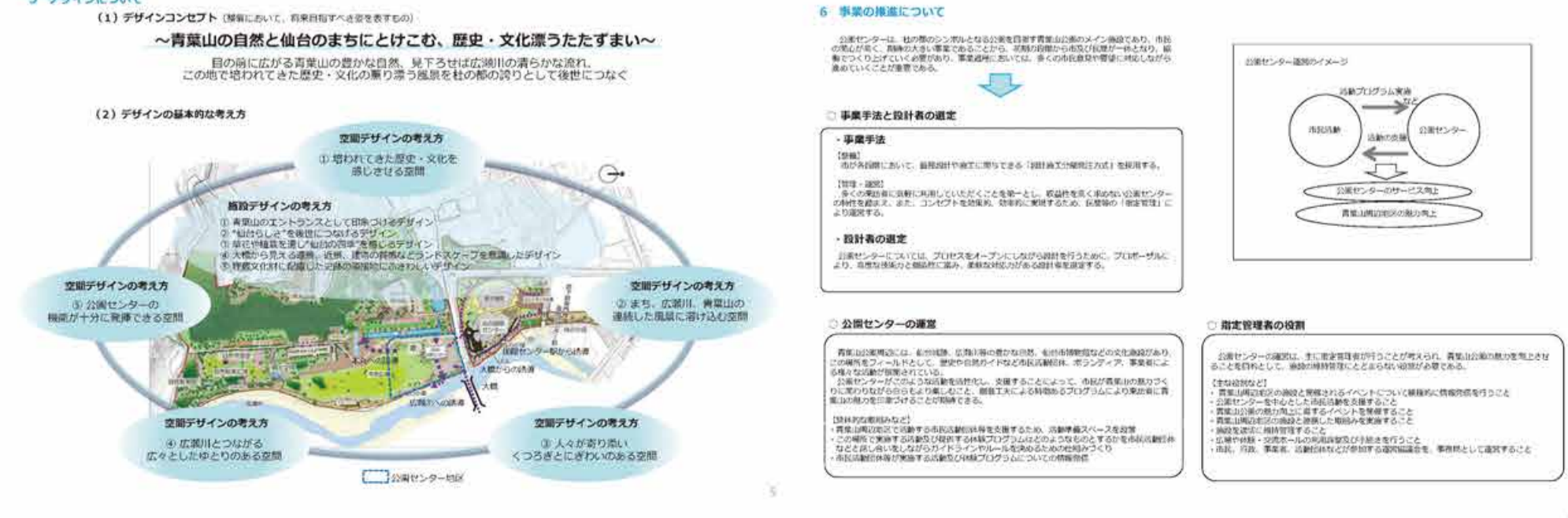
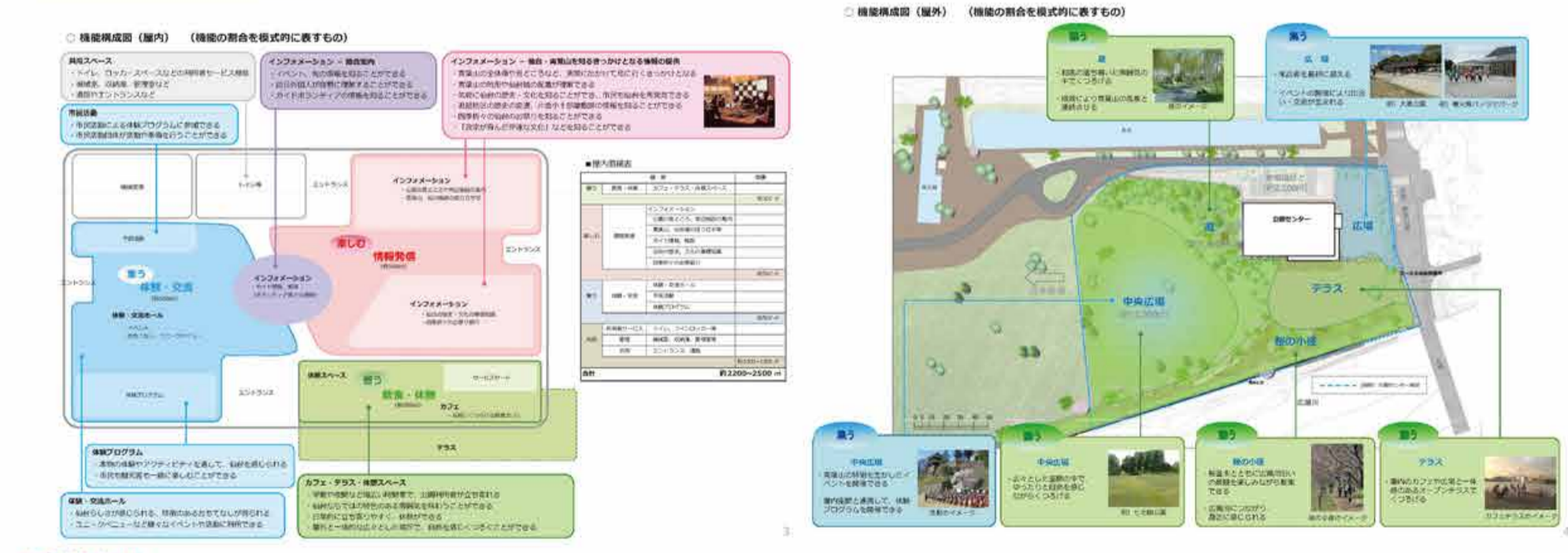
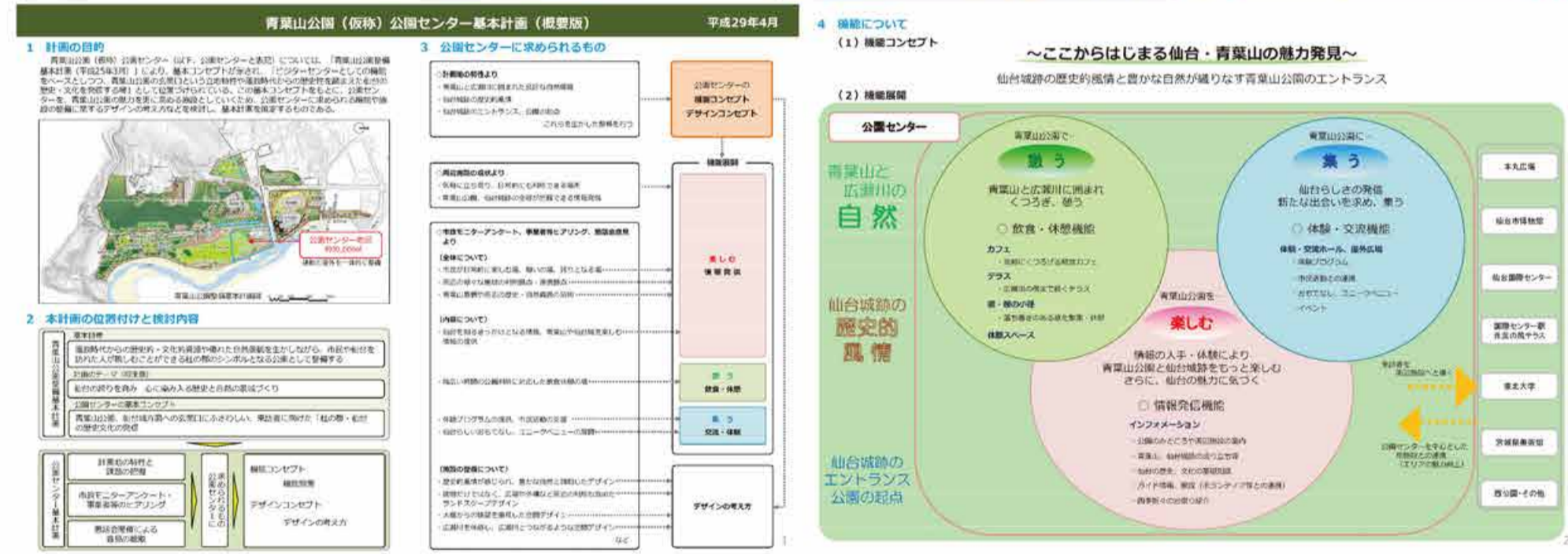
■（仮称）公園センターの機能コンセプト

～ここからはじまる仙台・青葉山の魅力発見～

青葉山公園（仮称）公園センター基本計画では、機能コンセプトを、「～ここからはじまる仙台・青葉山の魅力発見～仙台城跡の歴史的風情と豊かな自然が織りなす青葉山公園のエントランス」として、3つの機能展開が提案されています。1.「楽しむ」=情報発信機能、2.「憩う」=飲食・休憩機能、3.「集う」=体験交流機能

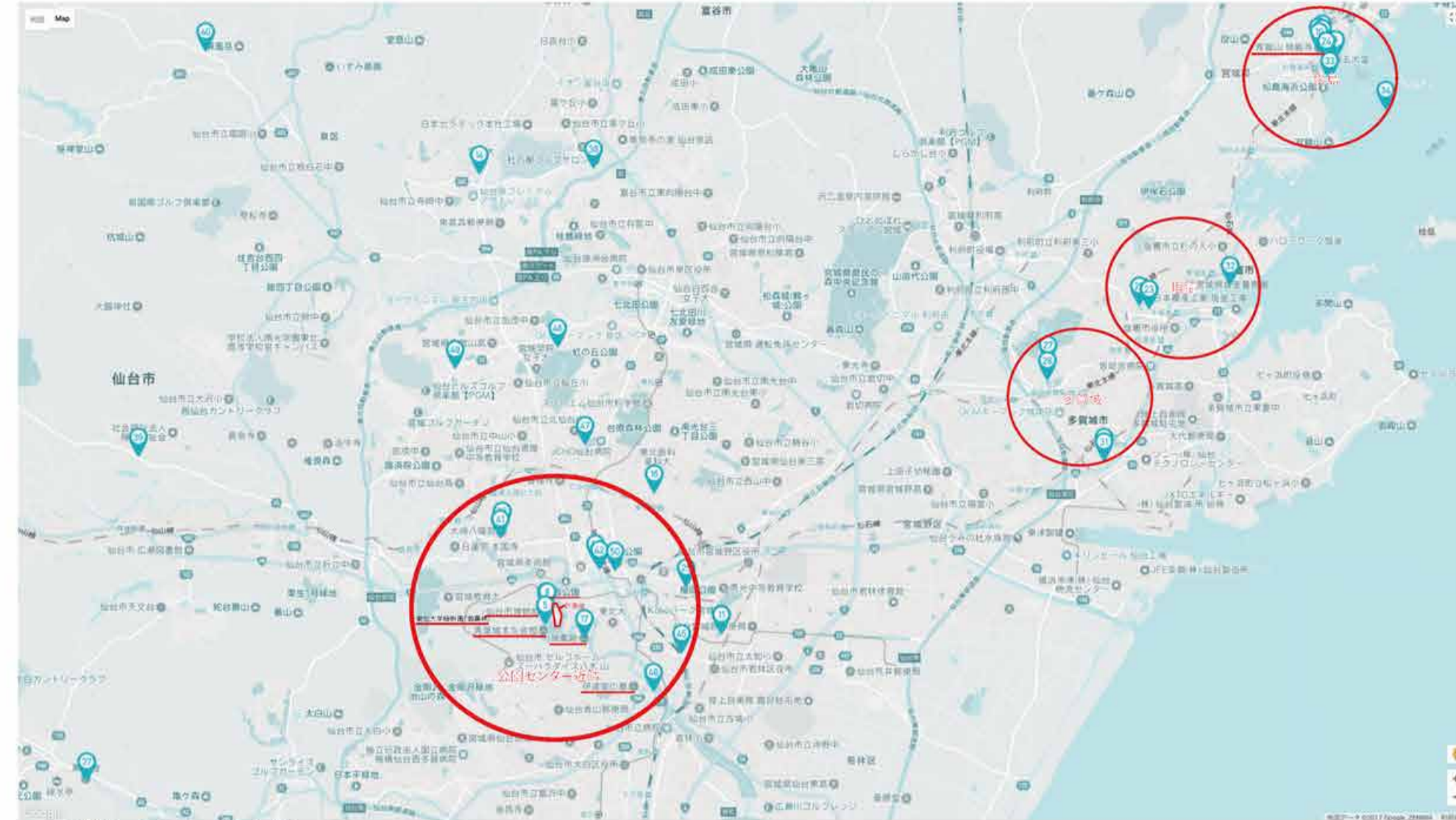
本計画地を中心据えてマップを見た際に、近距離、または広域での回遊性を生み出し、周辺地域・施設の魅力を発信し、常に追加・更新されていく仕組みづくりが求められています。

■青葉山公園（仮称）公園センター基本計画（パンフレット・概要版）平成29年4月



■（仮称）公園センターからみた広域の"伊達"な文化分布マップ

（引用：「伊達」な文化」魅力発信推進事業実行委員会ウェブサイト）



■構成文化財

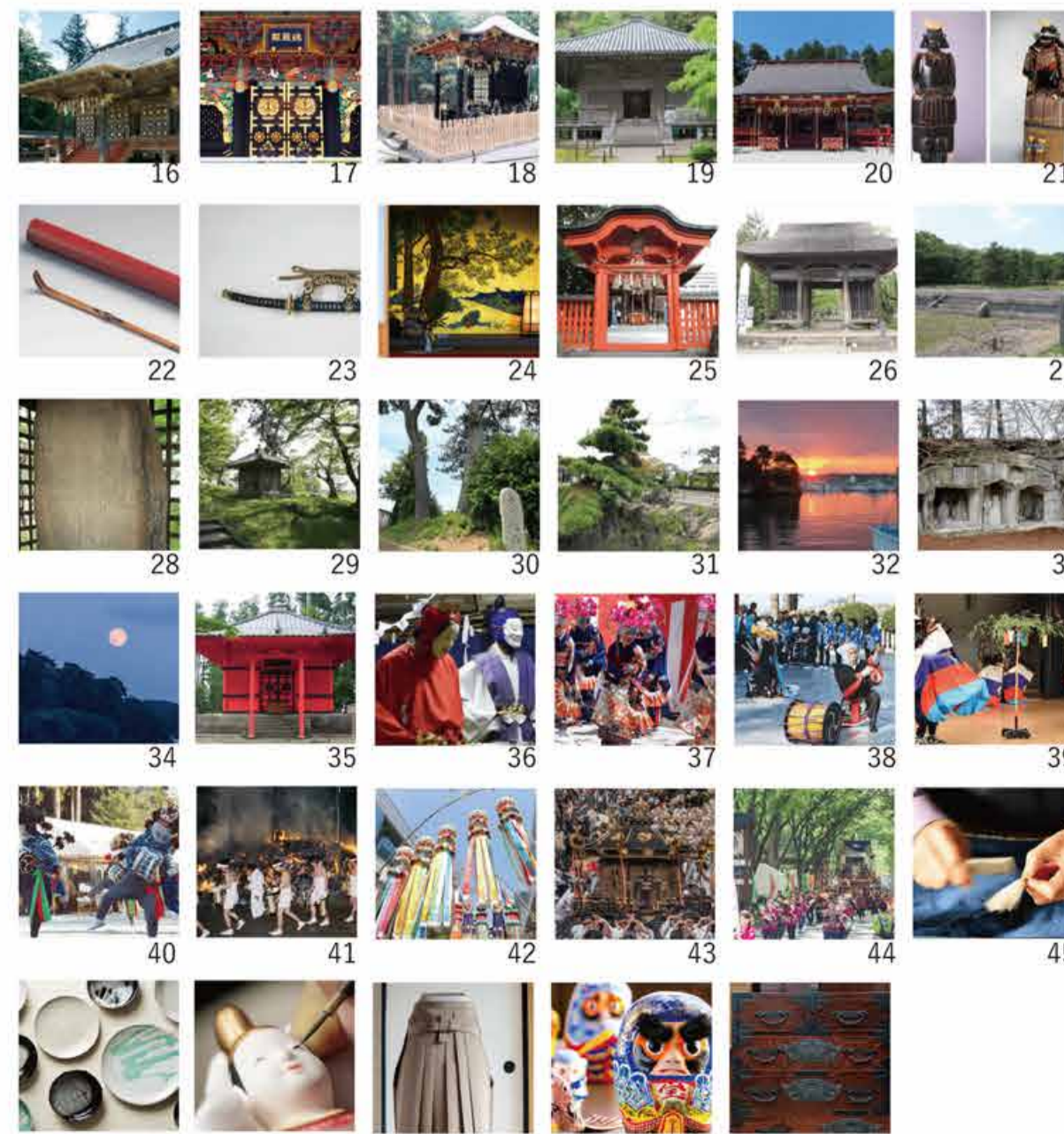
1. 伊達政宗と仙台藩の文化



2. 政宗による文化の確立



3. 政宗以後の文化の広まり



■敷地周辺のアクティビティ関連マップ



■仙台市主要イベントカレンダー

仙台市主要イベントカレンダー（仙台市HPで主要イベントと記載のものを抽出、分類も仙台市HPを参照）

4	5月中旬 仙台国際 ハーフマラソン大会 スポーツ	5月下旬 仙台・青葉まつり 文化・芸術	
5	6月上旬 とっておきの音楽祭 文化・芸術	5月中旬～6月末 東北絆まつり （東北6県で毎年持ち回り） その他	
6	7月下旬 夏まつり 仙台すずめ踊り その他	8月6～8日（5日 仙台七夕花火祭） 仙台七夕まつり その他	
7	9月上旬 定禅寺ストリート ジャズフェスティバル 文化・芸術	10月上旬 仙台クラシック フェスティバル 文化・芸術	
8	10月上旬 みちのく YOSAKOIまつり その他	12月上旬～31日 SENDAI 光のページェント その他	
9	11月上旬 大崎八幡宮どんと祭 その他	1月14日 大崎八幡宮どんと祭 その他	

チーム紹介

< AOBA JV とは >

ティーハウス・グラック・文化財保存計画協会設計共同体の通称。

今回のプロポーザルで最優秀の技術提案に選ばれ、今後、青葉山公園と仙台の歴史を市民のみならず、学び考えていく機会を通して、未来につながる、青葉山公園を創っていきたくて考えております。

■監修者グループ

■これまでの取り組み

■監修者グループと専門家グループのチーム編成



梶橋 修

1968年富山県生まれ。
神戸大学大学院工学研究科建築学専攻准教授、ティーハウス建築設計事務所主宰。
2014年東日本大震災復興支援「失われた街」模型復元プロジェクトが第40回放送文化基金賞受賞 (NHK 盛岡放送局と共同受賞)。
2015年日本建築学会賞 (業績) 共同受賞。



氷見朝日山公園灯籠 WS (氷見市)



失われた街 模型復元 WS (大船渡市)



福岡 孝則

1974年神奈川県生まれ。
東京農業大学造園科学科准教授、Fd Landscape 主宰/米国公認登録ランドスケープアーキテクト。
米国 Hargreaves Associates, Gustafson Guthrie Nichol Ltd を経てドイツ Atelier Dreiseitl GmbH (現 Ramboll Studio Dreiseitl) に勤務。
コートヤード HIROO で 2015 年度グッドデザイン賞受賞。



鶴間公園みどりの WS (町田市)



鶴間公園のデザイン・レビュー (町田市)



松田 法子

1978年生まれ。
京都府立大学大学院生命環境科学研究科専任講師。
まちづくりに関連したプロジェクトに、「地-質からみる神戸」(2013 / KIITO)、「地-質からみるさいたま」(2015-16 / さいたまトリエンナーレ)、富山県氷見市新朝日山公園の設計にかかる都市史・地域史研究とワークショップ (2014-2017) など。



地-質からみる神戸 (神戸市)



東急池上線『生活名所』ツアー『水景、谷景、生活景』(東京都)



腰原 幹雄

1968年千葉県生まれ。
東京大学生産技術研究所・教授、NPO team Timberize 理事長。
2009年 第6回 木の建築賞 木の建築大賞、2010年 土木学会デザイン賞最優秀賞、2012年 日本建築学会賞 (業績)、2012年 World Monuments Fund/Knoll Modernism Prize、2013年 都市住宅学会業績賞など。



NPO Team Timberize



下馬の集合住宅 (目黒区)



矢野 和之

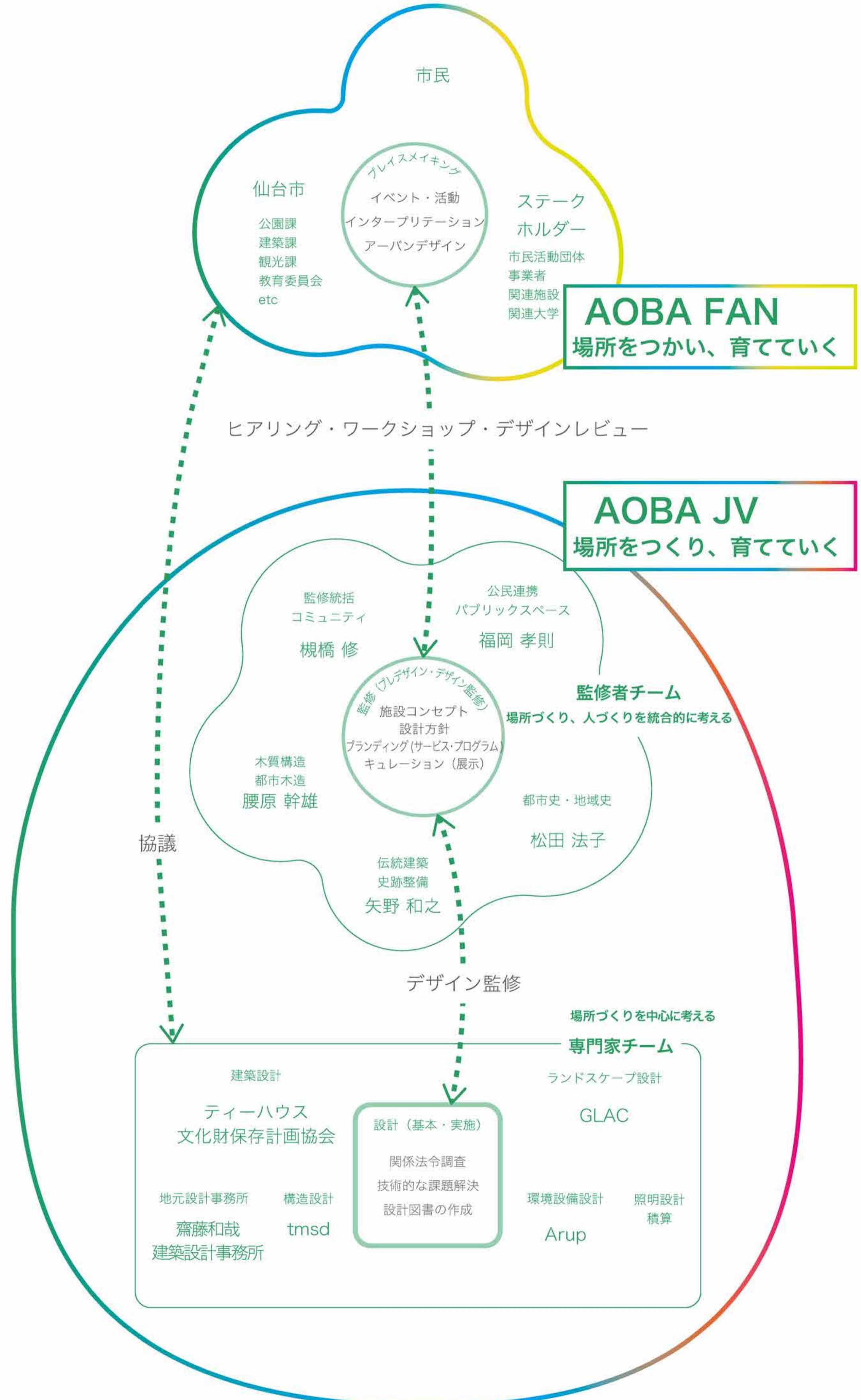
1946年熊本生まれ。
株式会社文化財保存計画協会代表取締役。
日本 ICOMOS (イコモス) 国内委員会事務局長。
観光庁観光地域ブランド確立支援事業等検討委員会委員。東京都市大学大学院非常勤講師。
第10回仙台市都市景観特別賞 2008「仙台城跡からの眺望と石垣修復事業」。



歴史を生かしたまちづくりシンポジウム (日本イコモス・熊本市共催)



名勝 楽山園 (群馬県甘楽郡甘楽町)



敷地の変遷

1947年から2008年にかけて、定期的に撮影された空中写真と、仙台・青葉山公園の年表とを合わせて敷地周辺の変遷を探りました。

■青葉山公園の変遷

(引用：青葉山公園公園センター基本計画巻末資料)

- 明治 7年 1874年 この頃仙台城本丸の建造物群取り壊し
- 昭和 10年 1935年 伊達政宗騎馬像建立（初代：戦時中の金属回収で供出）
- 20年 1945年 仙台空襲により国空の大手門や脇櫓等焼失
- 21年 1946年 「仙台総合運動場」として都市計画決定（戦災復興院告示 第244号）[01](#)
計画面積：約22.5ha
- 28年 1953年 都市公園として開園 [02](#)
- 29年 1954年 本丸跡開園
- 30年 1955年 「仙台総合運動場」を「青葉山公園」に名称変更（建設省告示第1293号）
- 31年 1956年 三の丸跡開園 [03](#)
- 32年 1957年 青葉山公園庭球場開設
- 36年 1961年 仙台市博物館（旧館）開館
- 39年 1964年 伊達政宗騎馬像再建（二代目：初代の原型を元に再鋳造）[04](#)
- 39年 1964年 宮城県スポーツセンター開館（H18廃止）
- 42年 1967年 大手門脇櫓再建 [05](#)
- 52年 1977年 中門跡北石垣修復（高さ2.9m、長さ20m、石材440石）[08](#)
- 53年 1978年 6月12日 宮城県沖地震：17.14頃 マグニチュード7.4 仙台市震度5
- 61年 1986年 3月 現仙台市博物館開館
- 平成 3年 1991年 9月 仙台国際センター開館 [11](#)
- 8年 1996年 11月 青葉山公園基本計画策定
- 9年 1997年 7月 青葉山公園整備事業 事業計画認可取得（宮城県告示 第842号）
事業面積：約30.4ha、事業期間：平成19年3月
- 10年 1998年 3月 本丸北壁石垣修復着工（高さ5～18m、長さ190m、石材10,332石）
- 10年 1998年 5月 伊達政宗騎馬像移設（二代目を南側に約20m移動）
- 11年 1999年 11月 残月亭の仙台市博物館敷地移築（石巻市の跡地より寄贈）
- 15年 2003年 8月 国史跡指定（仙台城跡）
市道追廻天主台線・追廻電の口沢線の西側一帯指定面積：約66ha
- 16年 2004年 3月 本丸北壁石垣修復完成
- 16年 2004年 6月 青葉山公園整備基本計画検討委員会設置（H17.8まで10回開催）
- 17年 2005年 8月 地下鉄東西線都市計画決定に伴う公園区域変更（仙台市告示 第966号）
計画面積：約50.3ha
- 17年 2005年 8月 青葉山公園整備基本計画検討委員会の答申
- 17年 2005年 11月 中門跡南石垣修復（高さ0.7～3.6m、長さ50m、石材538石）
- 17年 2005年 11月 清水門跡石垣修復（高さ1.6～3.5m、長さ24m、石材221石）
- 18年 2006年 3月 仙台城見聞館開館 [12](#)
- 19年 2007年 3月 事業計画変更認可取得（宮城県告示 第314号）[13](#)
史跡指定地内の施設配置計画変更、事業期間：平成29年3月に延長
- 23年 2011年 3月 事業計画変更認可取得（宮城県告示 第194号）
主に追廻地区の施設配置計画変更
- 23年 2011年 3月11日 東北地方太平洋沖地震—東日本大震災—（青葉区震度6弱）[14](#)
- 23年 2011年 4月7日 東日本大震災最大余震（青葉区震度6弱）
- 24年 2012年 3月 事業計画変更認可取得（宮城県告示 第293号）[15](#)
認可区域の拡大（国際センター地区・二の丸跡）事業面積：約42.1ha
- 25年 2013年 3月 事業計画変更認可取得（宮城県告示 第224号）[16](#)

■仙台の歴史

(引用：仙台市ウェブサイト)

- 慶長 5年 1600年 伊達政宗、千代を仙台と改め居城とする
- 6年 1601年 城下の縄張りを始める
- 明治 4年 1871年 廃藩置県により仙台藩が仙台県となる
- 20年 1887年 東北本線上野～仙台～塩釜間開通
- 22年 1889年 市制施行（人口8.6万人）
- 大正 12年 1923年 市営上水道、給水を開始
- 昭和 5年 1930年 市立病院開院
- 17年 1942年 市営バス営業開始
- 20年 1945年 仙台空襲で氏中心部全壊
被災戸数約1万2千戸、死者約1千人
- 32年 1957年 仙台空港開港
- 37年 1962年 「健康都市宣言」
- 46年 1971年 仙台港開港 [06](#)
- 50年 1975年 東北自動車道（若槻～仙台南）供用開始 [07](#)
- 53年 1978年 宮城県沖地震（M7.4）発生 仙台で震度5、死者13名
- 54年 1979年 「防災都市宣言」
- 57年 1982年 東北新幹線開業（盛岡～大宮）[09](#)
- 61年 1986年 台風10号豪雨被害
第1回「SENDAI 光のページェント」開催
- 62年 1987年 地下鉄南北線開業 [10](#)
市制施行100周年
- 平成 元年 1989年 政令指定都市移行（人口89.6万人）
第1回「仙台ハーフマラソン大会」開催
- 3年 1991年 人口100万人到達
- 11年 1999年 仙台メディアテーク開館
第1回「仙台国際音楽コンクール」開催
- 13年 2001年 仙台空港アクセス鉄道開業 [13](#)
- 19年 2007年 東日本大震災（M9.0）発生 [14](#)
震度6強（宮城野区）、津波高7.1m（推定）、死者1,002名、全壊建物30,034棟
東北六魂祭開催
- 25年 2013年 国宝「慶長遣欧使節関係資料」がユネスコ記憶遺産登録
- 27年 2015年 地下鉄東西線開業
第3回国連防災世界会議開催
- 28年 2016年 「政宗が育んだ“伊達”な文化」が日本遺産認定

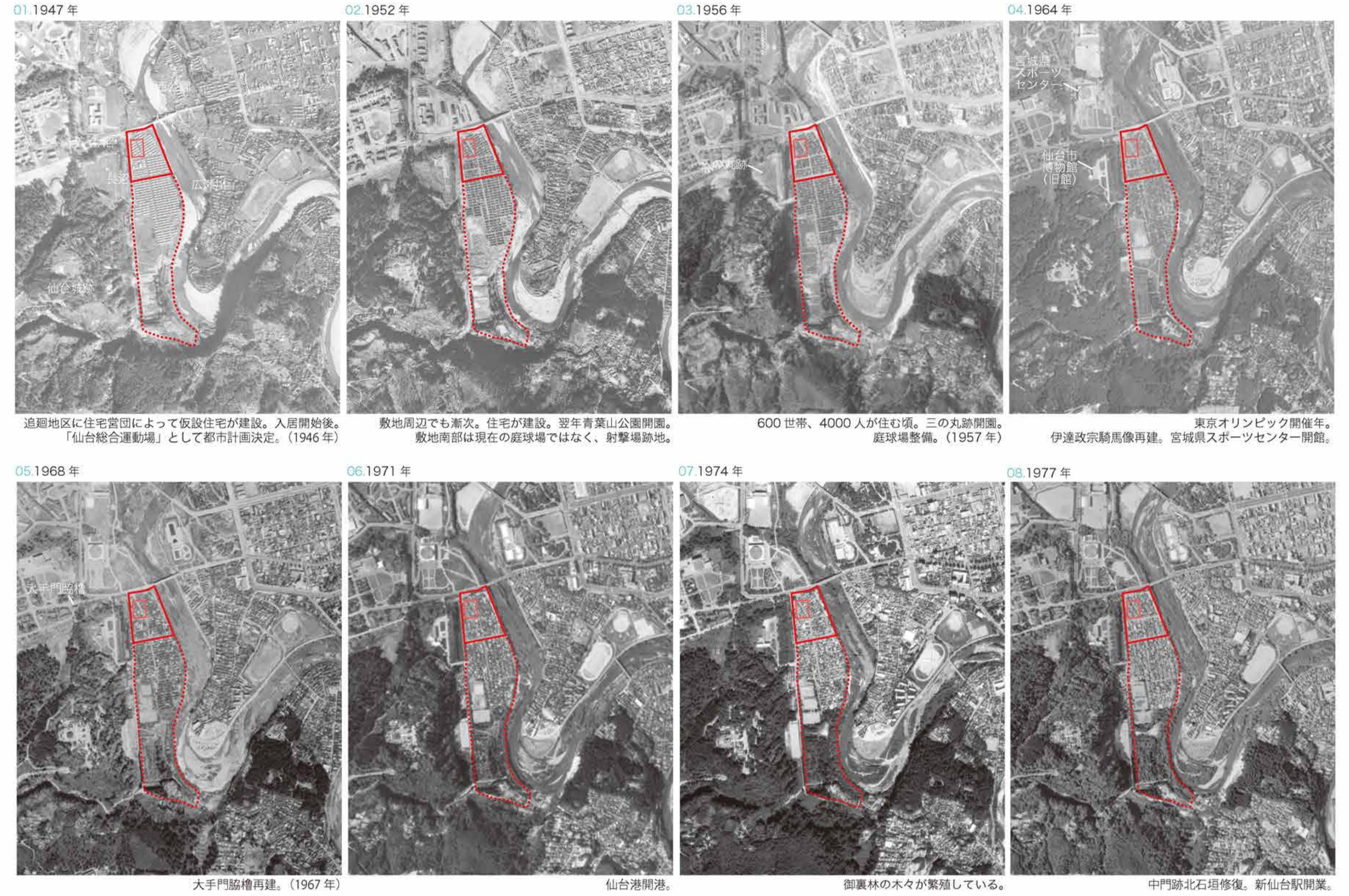
■奥州仙台城図 江戸中期～末期 (出典：国立国会図書館)



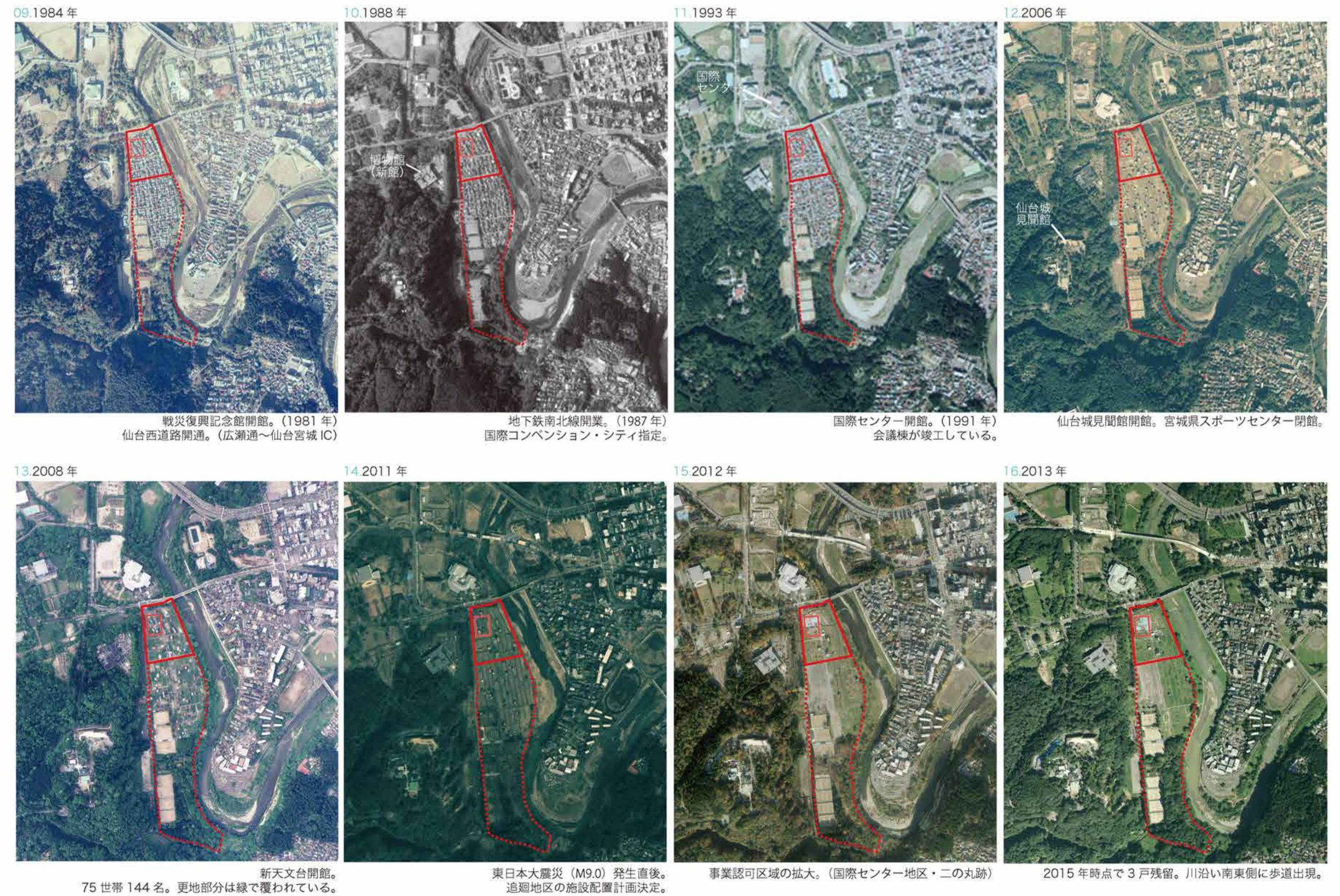
■奥州仙台領国絵図（部分）1697～1702年頃



敷地の変遷（戦後～現在）※国土地理院空中写真より写真引用



敷地の変遷（戦後～現在）



敷地周辺の環境分析

■気象観測データ概要

ここに記載したグラフ等は、気候条件の参照元として仙台市気象台によって観測された気象データを元に作成されました。

気象台は本計画敷地（青葉区川内追廻地区）より約3.3km東に設置されています。気象スケールの観点から、本グラフは気象台による観測の周辺地域における代表性を考慮し、気温・湿度、日照時間・日射量、降雨量においては補正なしで扱い、風速・風況は観測データをもとにCFD（数値流体解析）による環境解析を実施しました。

■公園センター基本設計への活かし方

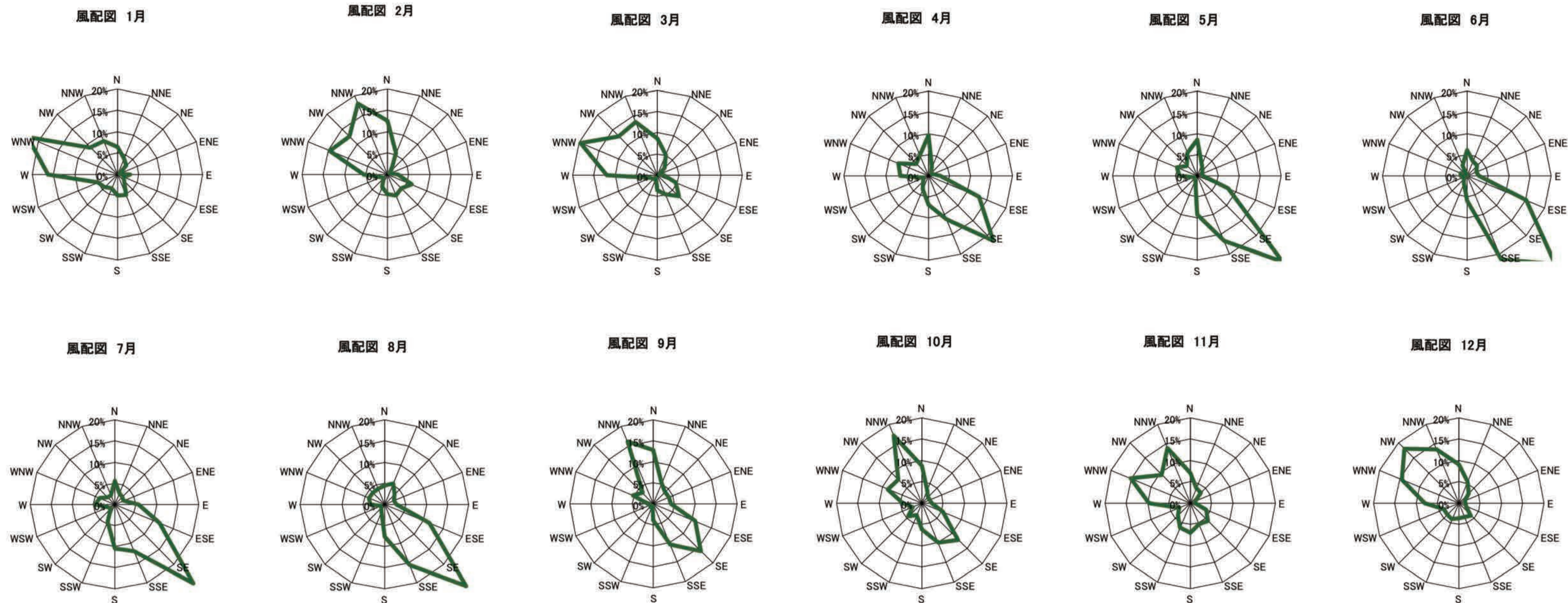
計画地周辺は主に、春期から夏期にかけては南東風が卓越し、秋期から冬期にかけては北西風が卓越します。昼夜の違いは顕著でなくむしろ、季節による風向の違いが明瞭に現れています。

これより本計画では、南東から北西に向けた風の軸（通風）を上手に利用した屋内外での自然通風計画が環境づくりに大変有効であると言えます。

基本的に、南東から北西を貫く風の軸に関しては、計画中その通風経路を反映することは、心地よい屋内外環境づくりに大変重要と言えます。

加えて夏期は、南東風を活かしながら同時に南からの日射遮蔽も実現する屋外環境、たとえば「高木をバランスよく配置してその足元（居住域）は通風を阻害せず、一方高高度の日射は効率的に遮蔽する」計画などはとても有効と言えます。

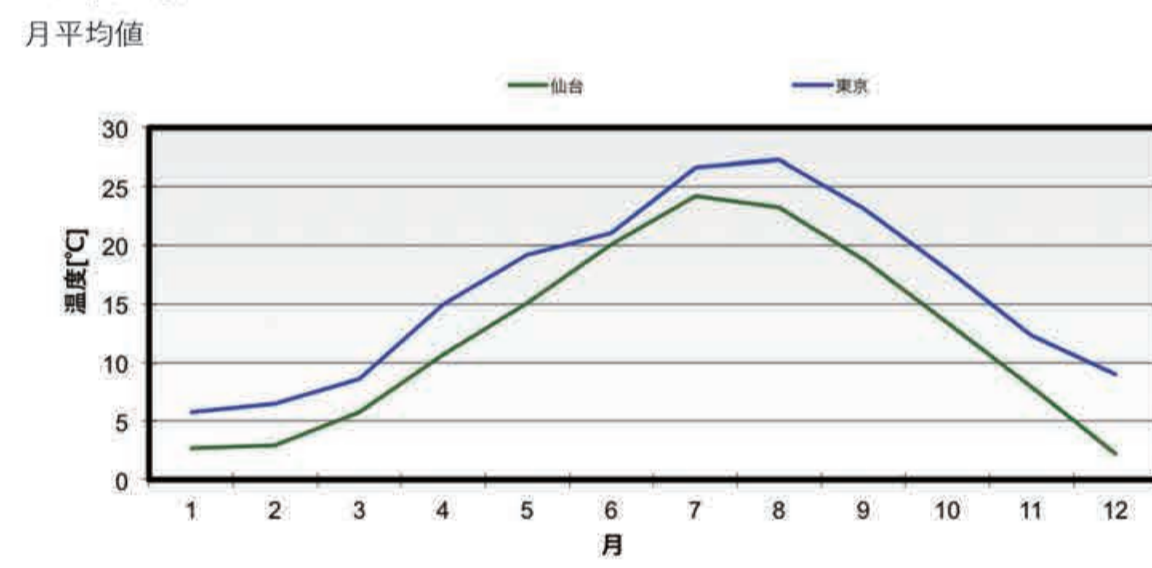
■風配図



月ごとの風配図を見ると、5～10月はNNWの風向成分が卓越しているのに対して、11～4月ではSSWの成分が卓越していることが見て取れる。また、特に7～12月では昼間と夜間で風向が異なることが確認できた。

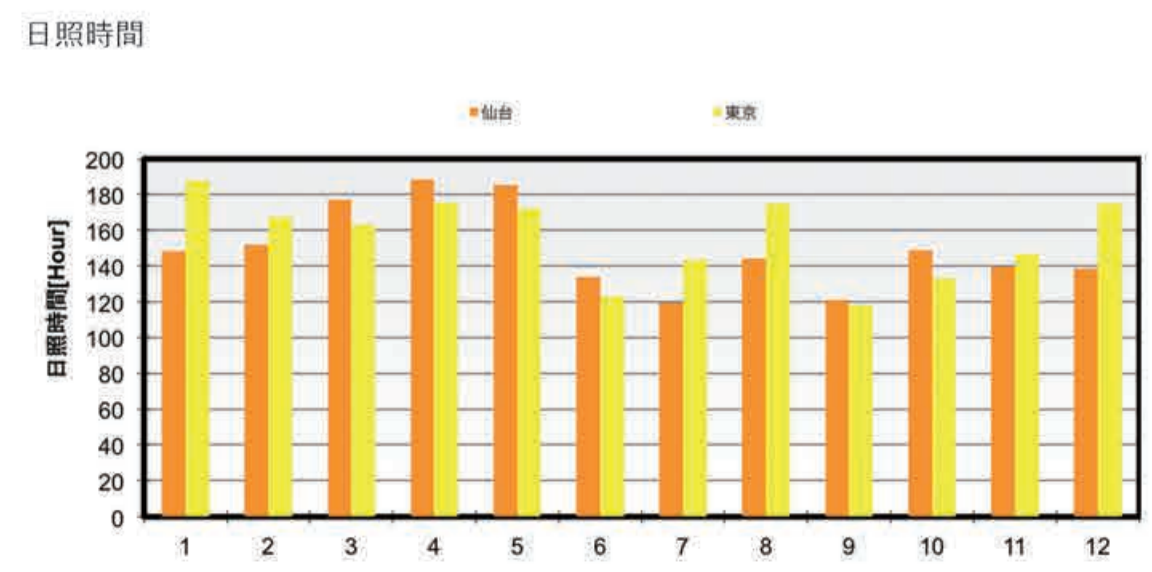
全日 (24時間)
昼間 (8:00～20:00)
夜間 (21:00～7:00)

■外気温

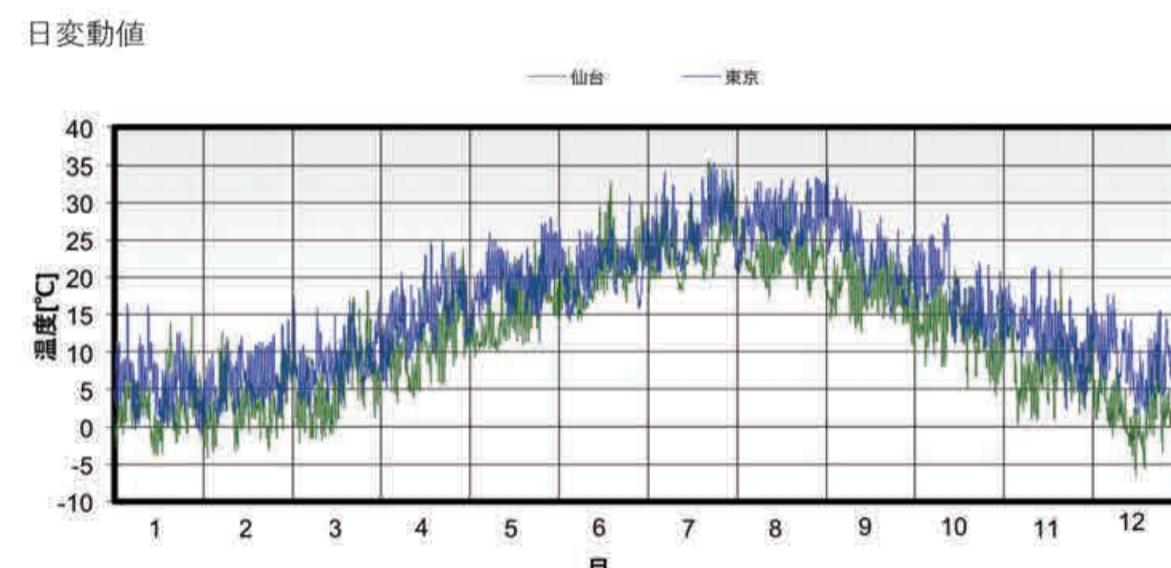


仙台市の外気温は東京にくらべて総じて低く、夏場で3～4°C程度、冬場においては4～6°C程度低い傾向が確認できる。

■日照時間

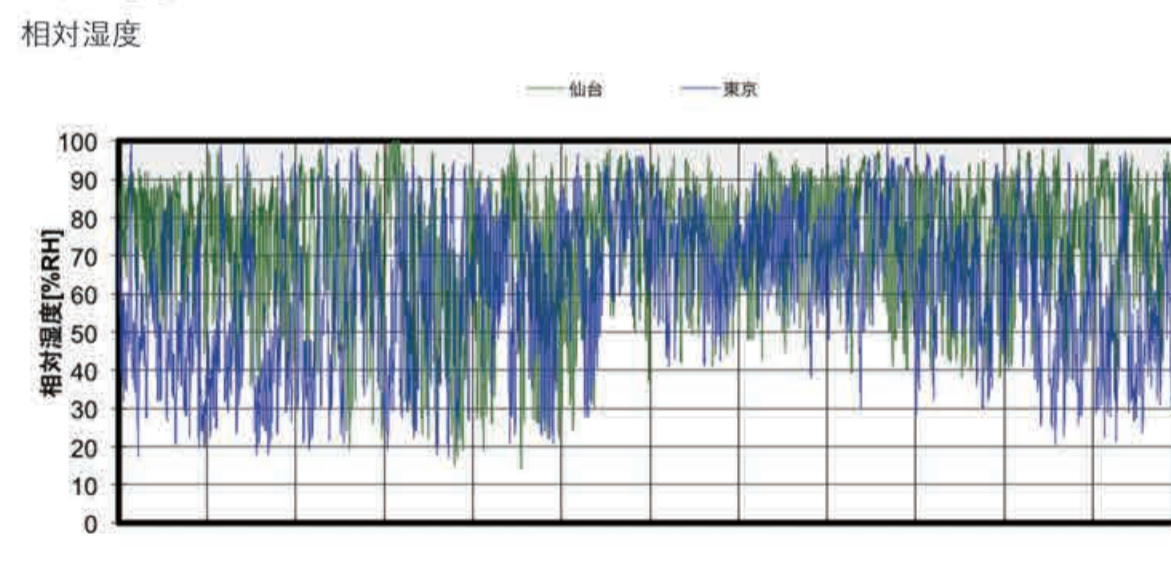


日照時間は総じて東京より低くなるが、月によっては東京を上回る場合がある。夏場、特に6月と9月で日照時間の低下が見られるが、これは以下の降雨量との相関関係が確認できることから、雨天時の影響によるものと想定される。



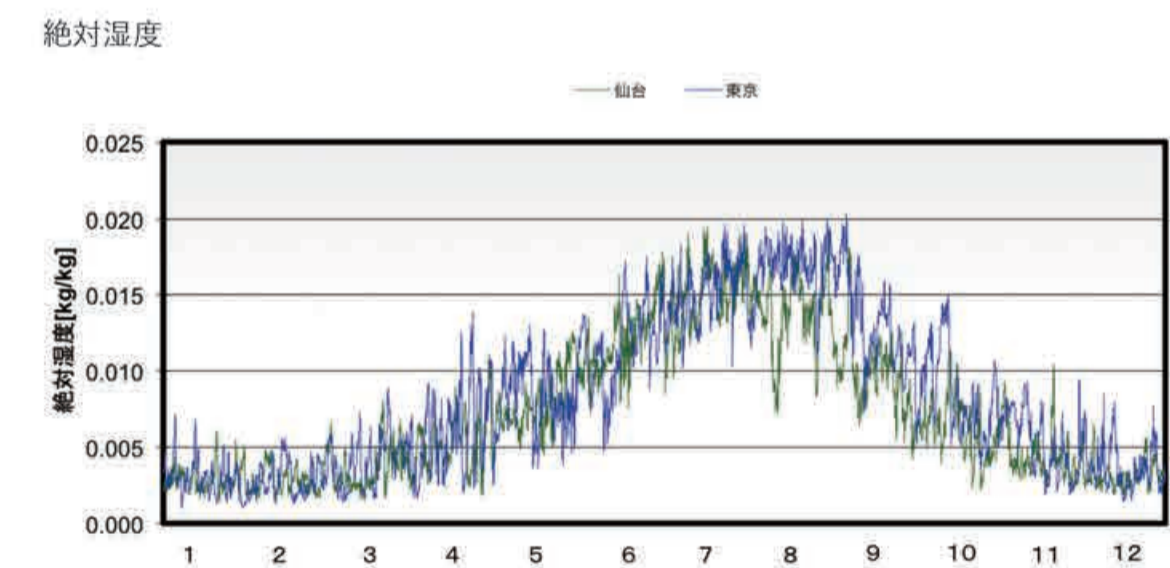
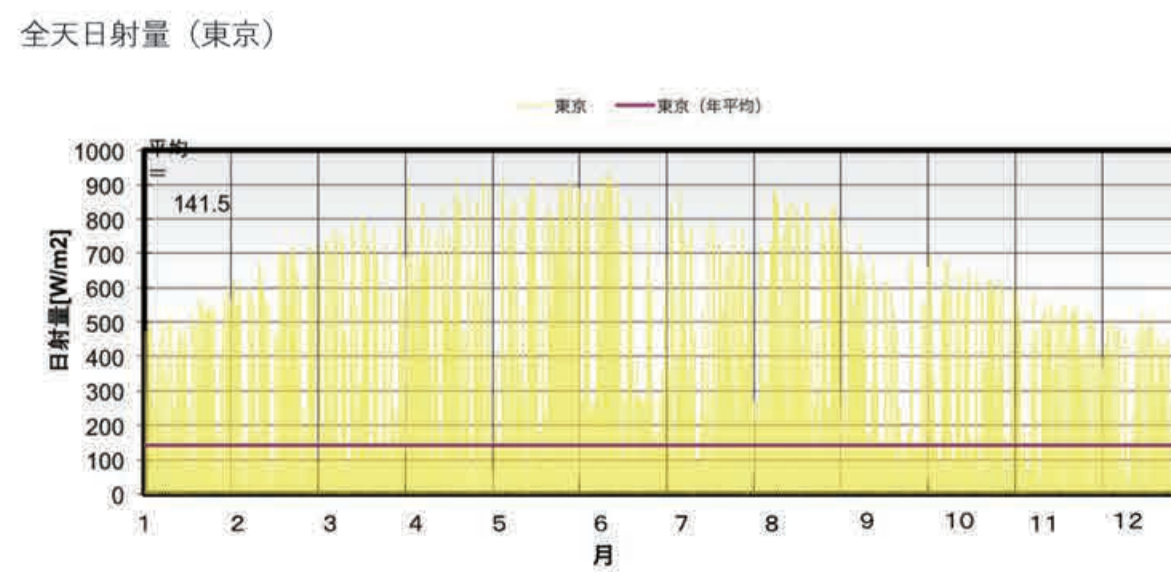
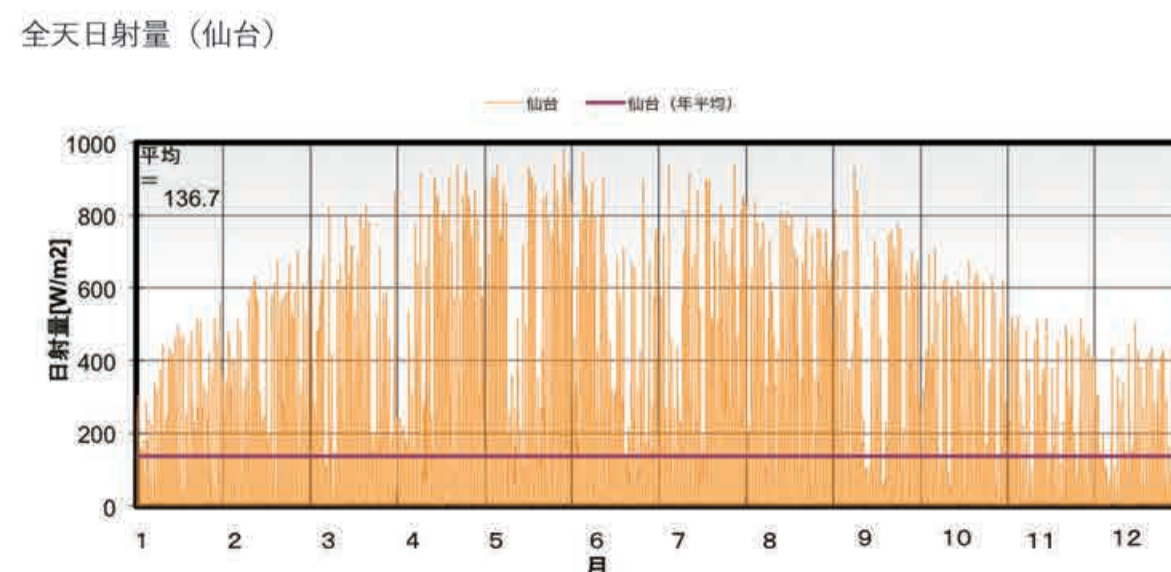
12月～2月にかけて-7°C程度まで低下することも確認された。

■湿度

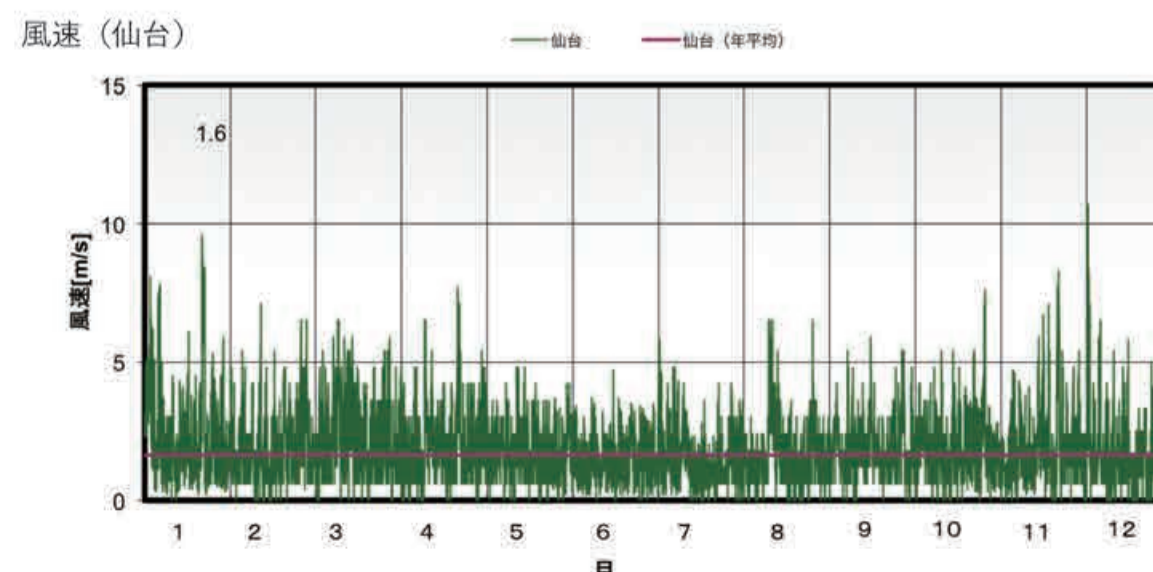


仙台市の湿度は絶対湿度の尺度においては東京と同程度であるが、外気温が東京に比べて低いため、相対湿度では東京より高い傾向にある。

■全天日射量

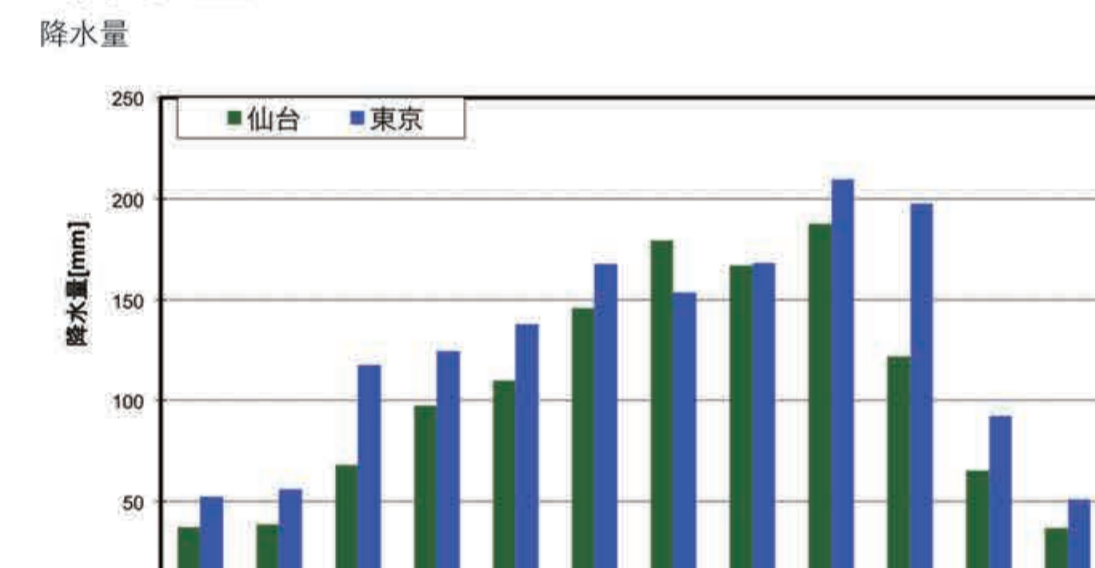


■風速

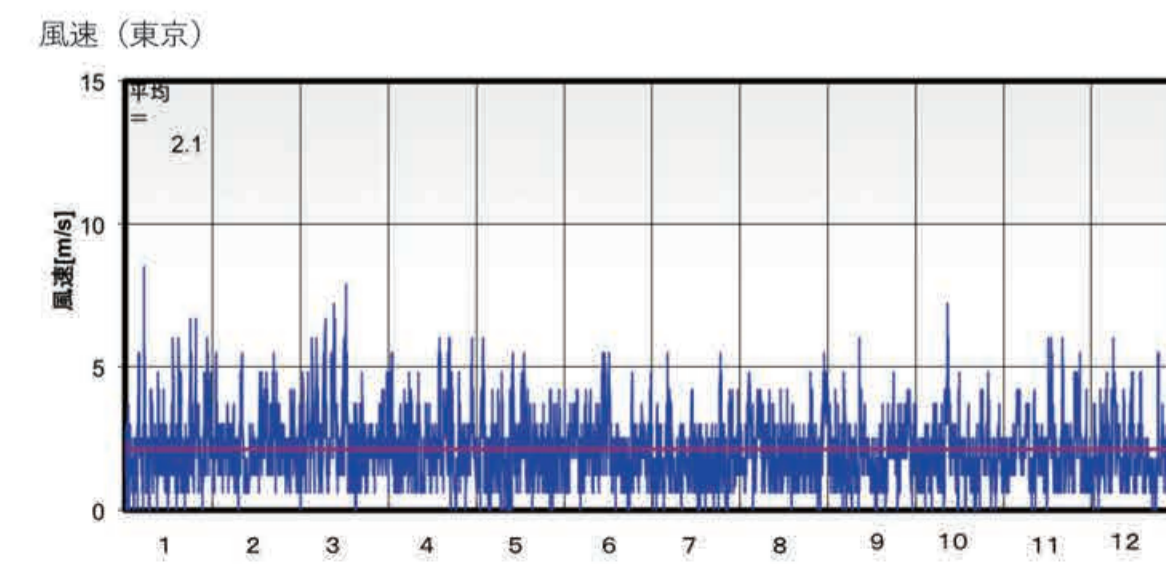


仙台市の風速は東京と比べて年間を通して低い値となっている。日変動値の観点からも比較的穏やかな日差であると言える。

■降水量



総じて、仙台市の降雨量は東京よりも少ないことが確認される。



敷地の植生と御裏林

■生物生息について（参考：環境調査報告書）

1. 全般

調査範囲が公園敷地北西急傾斜地、西端竜ノ口溪谷、広瀬川沿いであり、公園センター敷地内ではありませんが、鳥類に関しては公園センター敷地内でも確認出来る種で楽しむ事ができます。

2. 鳥類

確認種は平地や低山地にごく普通に見られる種が主。トビ、セグロセキレイ、シジュウカラ、スズメ、ハシブトガラス。（水鳥；マガモ、カルガモ/冬鳥；アトリ、カワラヒラ）

3. 両生類（主に竜ノ口溪谷）

ヤマアカガエル、カジカガエル（重要種）

共に河岸の植生があることが生息環境保全のポイントであり、公園センター敷地には直接関係ありませんが、青葉山一帯の植生、地形、水系が織りなす環境が様々な生物の生息環境をつくります。

4. 魚介類

魚類相としては単調（報告書より）。要注意外来生物に指定されているタイリクバナタナゴが確認されています。

5. 底生動物（主に竜ノ口溪谷）

41科67種とかなりの種数が確認され、これら水生動物における水質階級にあてはめると水質は比較的きれいといえる、と報告されています。

■植生について

植生については、公園区域の内、主に竜ノ口溪谷沿いで実施されており、重要種としてユキヤナギ（山地の河岸岸壁や岩礫地に生育、但し公園敷地のものは植栽種が野生化）ヤハズエンドウ（宮城県では太平洋側の北限）。その一方で、特定外来生物に指定されているアレチウリが確認されています。（竜ノ口溪谷右岸）

■基本設計の与条件

公園センター敷地内で特記すべき動植物の情報はありますが、御裏林の存在も含め、青葉山公園一帯の地形、植生、水系が織りなす生物生息などの自然環境について公園センターにて展示情報提供する意味はあると言えます。

また、敷地西端の竜ノ口溪谷沿いは、多様な動植物の生息、生育が認められる為、これらをテーマとした市民参加による公園管理活動の展開、活動拠点としての機能について公園センター計画で考慮することも考えられます。

■敷地の植栽の現況



■地形との関係性

- ・尾根部には、コナラ林が分布しており、傾斜部に向かうにつれアカマツコナラ林となる。
- ・北側の斜面地は大規模なモミイヌブナ林が分布している。
- ・竜ノ口溪谷側の沢部にかけて、アカシデ林が分布している。



■御裏林の現況（平成 29 年 10 月 8 日）

枝を水平に伸ばすモミが印象的な林床空間。
アカマツ - コナラ林はドングリ等の実が豊富。

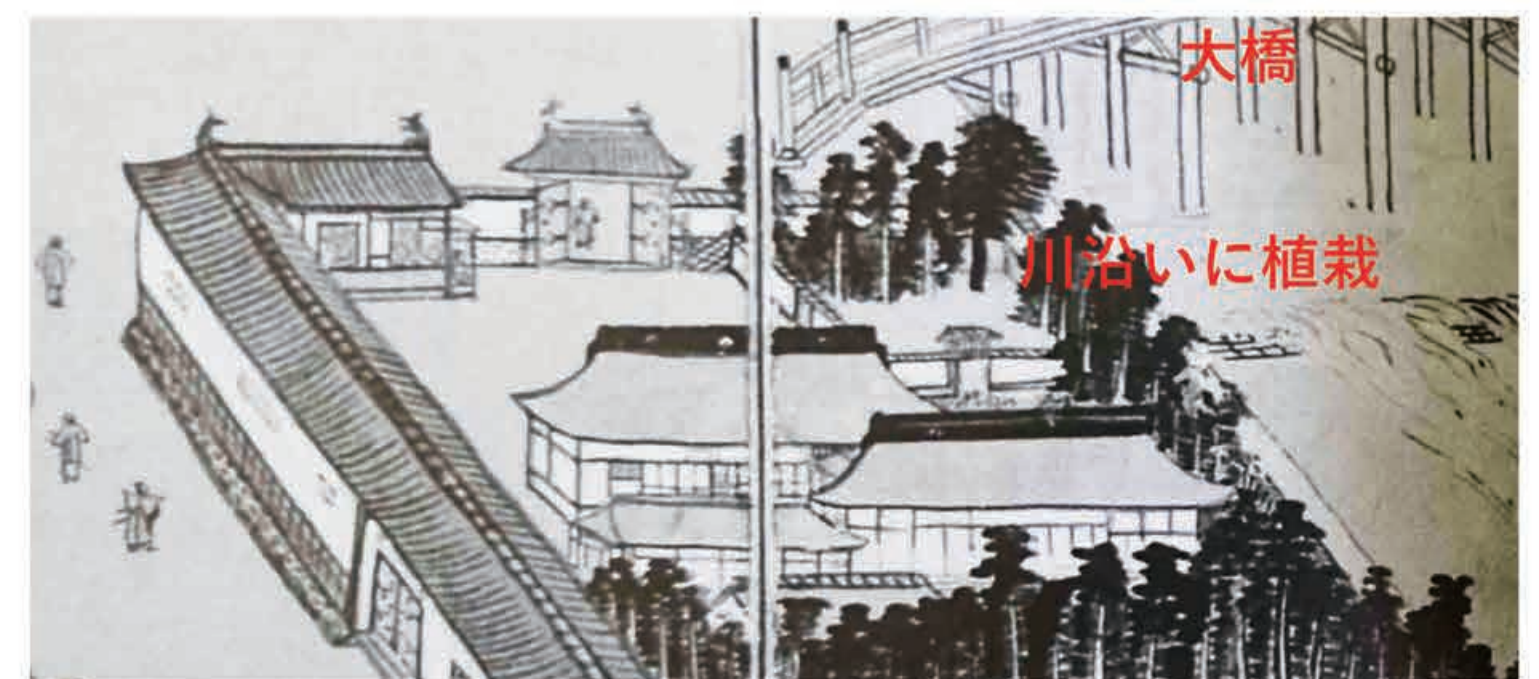


■魅力的な御裏林の植物



左から、モミ、アオキ（実）、ネコヤナギ（蕾）

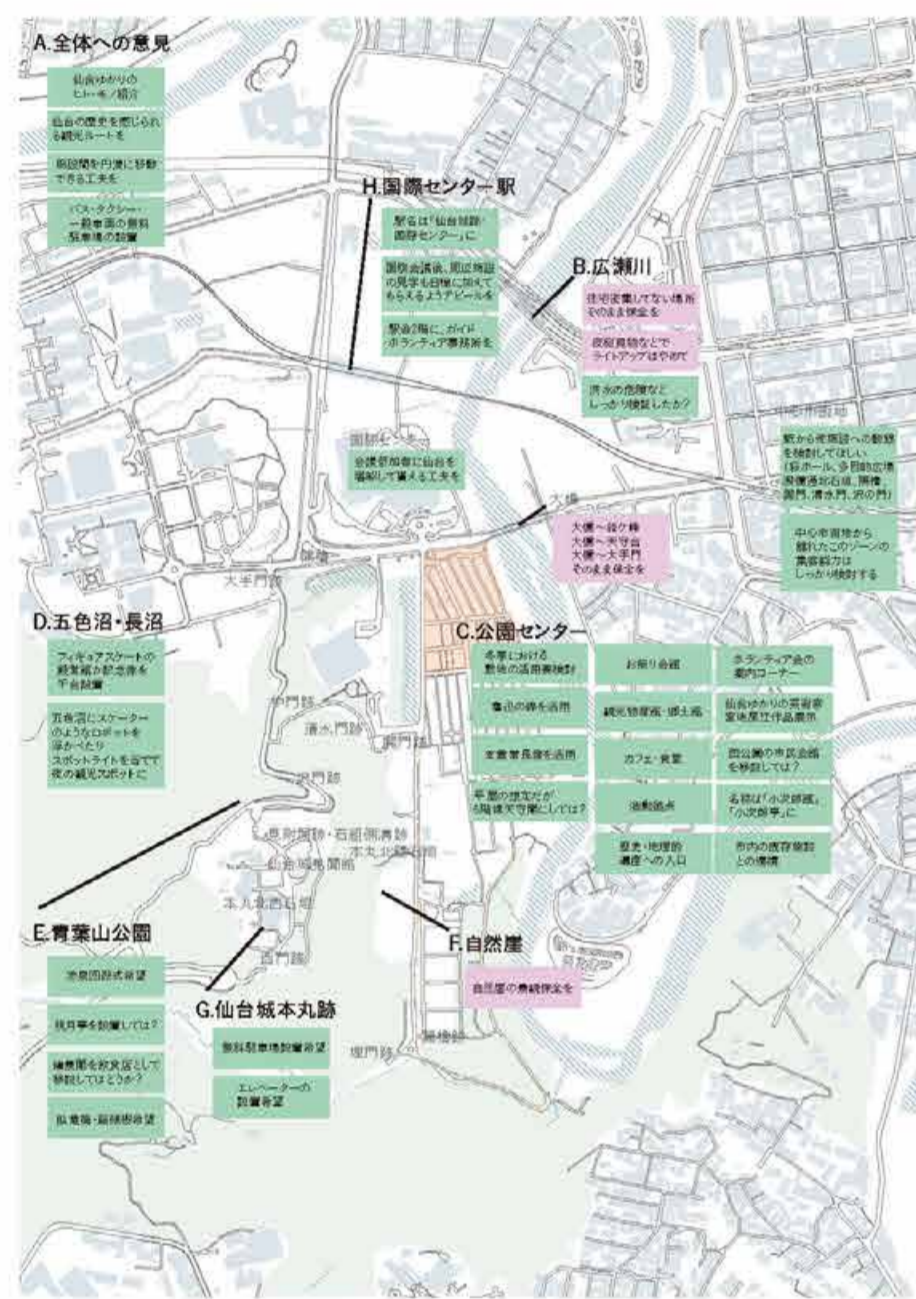
■片倉家屋敷における植栽のてがかり（出典：仙台城下図屏風 1865 年片倉屋敷部分/仙台市博物館所蔵）



これまで出た意見まとめ

2005年の青葉山公園整備基本計画（案）での市民意見募集から、公園センター整備に関する懇話会での意見も含め、以下5つの資料から、意見を抜粋しました。

■ 01: 「国際センター駅周辺整備に関する基本的方向性」に関するパブリックコメント (2011/12/05 ~ 12/25)



01: 国際センター駅周辺整備に関する基本的方向性パブリックコメント (H23年12月5日~25日) 要約

ポイント
・エリア内の動線や回遊性改善
・大規模な公園整備の推進
・自然環境の保全
・自然環境の保全
・自然環境の保全

回答者数 10名(内、団体を含む)
意見数 42件

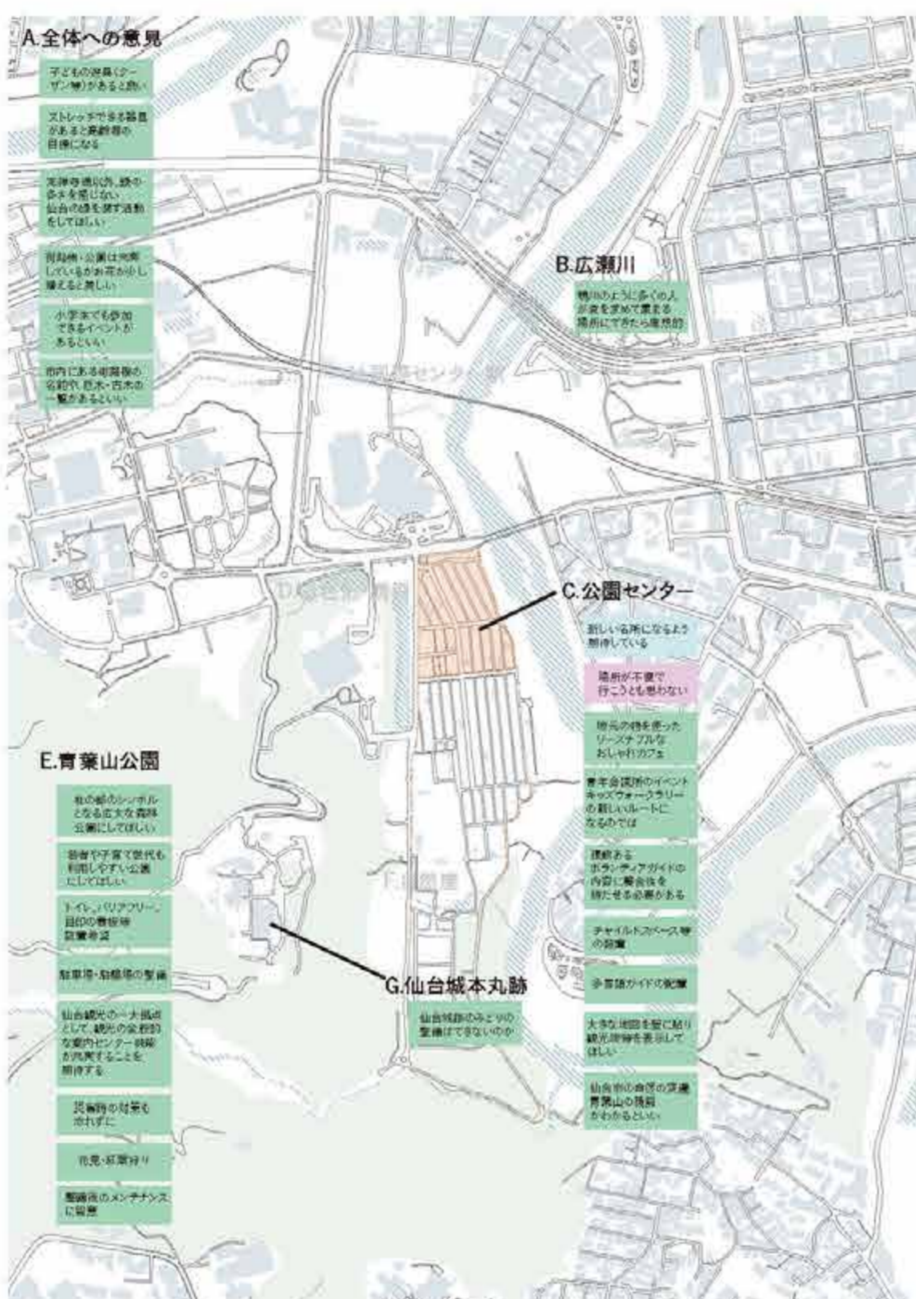
02: みどりの市民意識調査アンケート集計 (2015/8/27)

03: 青葉山公園（仮称）公園センターヒアリング調査票及び結果 (2016/6頃)

04: 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 (2016/6/1 ~ 2017/3/31)

05: 青葉山公園整備基本計画巻末資料 基本計画（案）市民意見 (2005/6/16 ~ 2005/7/15)

■ 02: みどりの市民意識調査アンケート集計 (2015/8/27)



02: みどりの市民意識調査アンケート集計結果 (H27年8月) 要約

ポイント
・公園としての整備条件は異なる。
・周辺住民の生活環境への配慮。
・公園センターへの意見数 72件

01: 「国際センター駅周辺整備に関する基本的方向性」に関するパブリックコメント (2011/12/05 ~ 12/25)

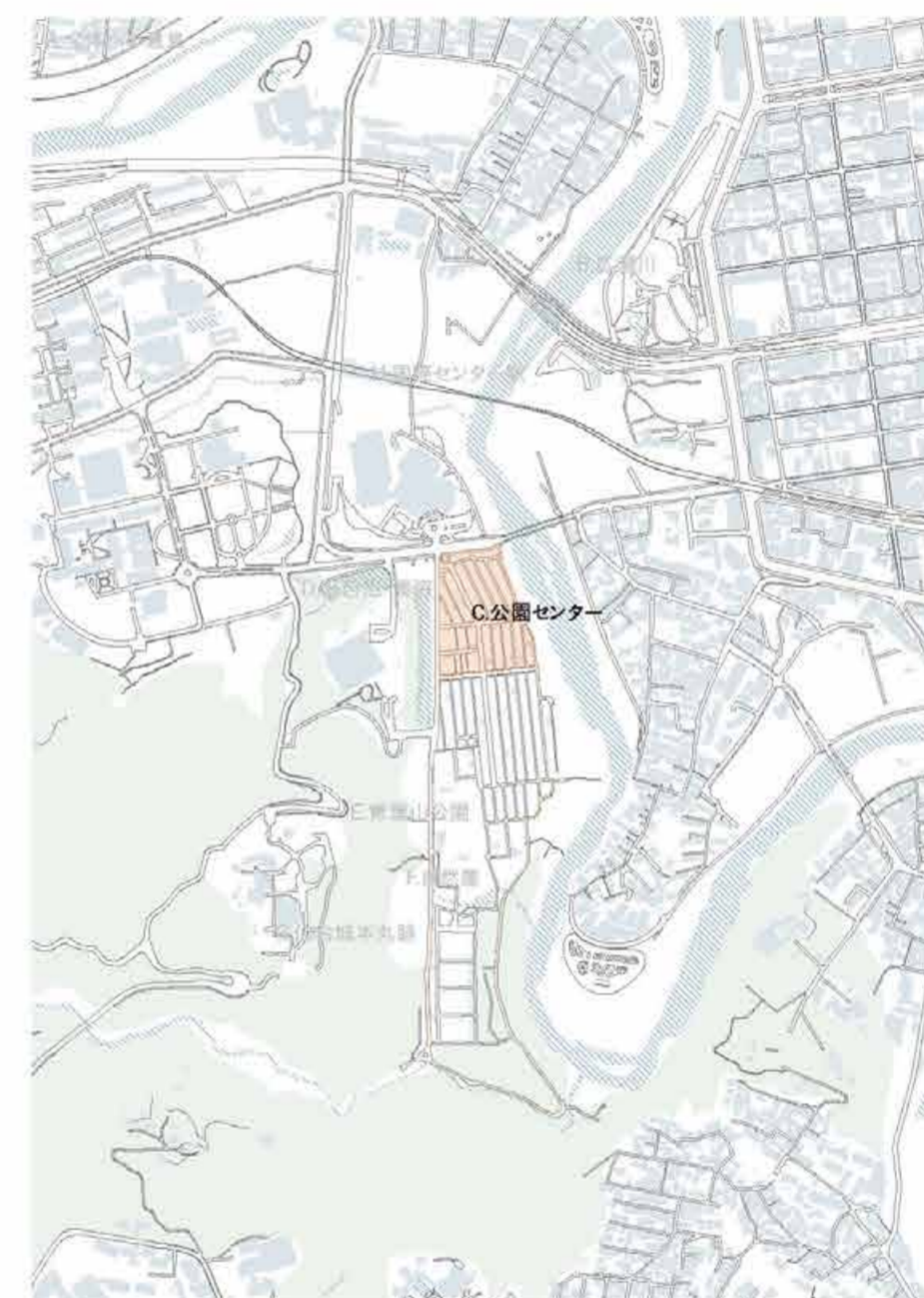
02: みどりの市民意識調査アンケート集計 (2015/8/27)

03: 青葉山公園（仮称）公園センターヒアリング調査票及び結果 (2016/6頃)

04: 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 (2016/6/1 ~ 2017/3/31)

05: 青葉山公園整備基本計画巻末資料 基本計画（案）市民意見 (2005/6/16 ~ 2005/7/15)

■ 03: 青葉山公園（仮称）公園センターヒアリング調査票及び結果 (2016/6頃)



03: 青葉山公園（仮称）公園センターヒアリング調査結果 (H27年) 要約

ポイント
・市民意識調査の結果を踏まえ、公園センターの整備を進める。
・公園センターへの意見数 100件

01: 「国際センター駅周辺整備に関する基本的方向性」に関するパブリックコメント (2011/12/05 ~ 12/25)

02: みどりの市民意識調査アンケート集計 (2015/8/27)

03: 青葉山公園（仮称）公園センターヒアリング調査票及び結果 (2016/6頃)

04: 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 (2016/6/1 ~ 2017/3/31)

05: 青葉山公園整備基本計画巻末資料 基本計画（案）市民意見 (2005/6/16 ~ 2005/7/15)

■ 04: 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 (2016/6/1 ~ 2017/3/31)



04: 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 (H28年6月1日~H29年3月31日) 要約

ポイント
・公園センターの整備を進める。
・公園センターへの意見数 100件

01: 「国際センター駅周辺整備に関する基本的方向性」に関するパブリックコメント (2011/12/05 ~ 12/25)

02: みどりの市民意識調査アンケート集計 (2015/8/27)

03: 青葉山公園（仮称）公園センターヒアリング調査票及び結果 (2016/6頃)

04: 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 (2016/6/1 ~ 2017/3/31)

05: 青葉山公園整備基本計画巻末資料 基本計画（案）市民意見 (2005/6/16 ~ 2005/7/15)

■ 04 続き



04: 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 (H28年6月1日~H29年3月31日) 要約

ポイント
・公園センターの整備を進める。
・公園センターへの意見数 100件

01: 「国際センター駅周辺整備に関する基本的方向性」に関するパブリックコメント (2011/12/05 ~ 12/25)

02: みどりの市民意識調査アンケート集計 (2015/8/27)

03: 青葉山公園（仮称）公園センターヒアリング調査票及び結果 (2016/6頃)

04: 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 (2016/6/1 ~ 2017/3/31)

05: 青葉山公園整備基本計画巻末資料 基本計画（案）市民意見 (2005/6/16 ~ 2005/7/15)

■ 05: 青葉山公園整備基本計画巻末資料 基本計画（案）市民意見 (2005/6/16 ~ 2005/7/15)



05: 青葉山公園整備基本計画（案）へのアンケート (H17年6月16日~7月15日) 要約

ポイント
・公園センターの整備を進める。
・公園センターへの意見数 100件

01: 「国際センター駅周辺整備に関する基本的方向性」に関するパブリックコメント (2011/12/05 ~ 12/25)

02: みどりの市民意識調査アンケート集計 (2015/8/27)

03: 青葉山公園（仮称）公園センターヒアリング調査票及び結果 (2016/6頃)

04: 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 (2016/6/1 ~ 2017/3/31)

05: 青葉山公園整備基本計画巻末資料 基本計画（案）市民意見 (2005/6/16 ~ 2005/7/15)

敷地周辺の段彩図

